

# 世代を繋ぐ

## —記憶から記録へ—

このたびは、8人の先生から、10編のご寄稿をいただき、大学論集の別冊として刊行できたことは高等教育研究開発センターとして、たいへん光栄なことです。今回は、本センターと何らかの関係があった、概ね80歳以上の先生に執筆をお願いし、快諾していただいた皆さんの原稿を収録させていただきました。

残念ながら、潮木守一先生は執筆をお願いした段階ですでに体調が悪化しており、ご寄稿をいただけないまま、本年2月に他界されました。また、ご寄稿いただいた黒羽亮一先生も3月に他界されました。黒羽先生の絶筆となりましたが、きちんと校正もしていただきました。本書を直接お渡しすることができなかったことが悔やまれます。

私は、大学院生のころから、毎年のように当時の大学教育研究センターを訪問していました。本センターに、多数の高等教育研究者が集うことを体感していました。私は現在、本センターのメンバーの中では最高齢であり、今回ご寄稿いただいた先生の活躍ぶりは、若い頃から存じ上げていました。40数年前から存じ上げていた先生ばかりで、本別冊には懐かしい話が満載です。しかし、もう少し若い世代になると、直接の面識はもちろん、論文や書籍にも触れたことがないという人が多くなります。私たちのような世代の記憶を、次の世代のための記録として世代を繋ぐことも、高等教育研究のセンターとしての責務だと考えています。

ご寄稿を拝見すると、一つ一つに私の思い出を重ねて、エピソードなどを書きたくなるのですが、自己満足に陥りかねないので、ここでやめておきます。ぜひ、10編の論稿をご覧ください。

改めて、ご寄稿いただいた先生、残念ながらご寄稿いただけなかった先生に、感謝申し上げます。

2023年5月

小林 信一  
高等教育研究開発センター長